

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 教育学部、教育学研究科	3
2. 経済学部、経済学研究科	5
3. 医学部、医学系研究科	7
4. 理工学部、工学研究科	9
5. 福祉健康科学部	11
6. 福祉社会科学部	13

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
教育学部、教育学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
経済学部、経済学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医学部、医学系研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
理工学部、工学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
福祉健康科学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
福祉社会科学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 教育学部、教育学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 4)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 毎年度、部局長裁量経費により教育学部・教職大学院短期プロジェクトを実施し、平成 28 年度は 25 件、平成 29 年度は 17 件、平成 30 年度は 19 件、令和元年度は 23 件を採択した。申請分野として、附属学校園や公立・私立の学校現場と連携した研究、科研費等の獲得につながる研究、また若手研究者に対する支援などを設定し、そのうち「附属学校園や公立・私立の学校現場との研究教育連携プログラム」（平成 28 年度は「附属学校園との研究教育連携プログラム」）4 件から 10 件、9 件、13 件と年々着実に増加・充実していることが特筆される。各年度末に成果発表会を開催するほか、成果報告書を『教育研究所報』に掲載している。
- 教育実践総合センターが担当する「人材バンク」を平成 28 年度に大幅に見直し、学部・研究科の教員及び附属学校園の教員の研究・教育活動や関心、連携可能な事項を網羅した冊子を毎年度刊行するとともに連携協力のシステムを整備し、その後も改善に努めている。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、3 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

2. 経済学部、経済学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 6)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 6)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 地方圏の若者の生活・結婚・仕事に関する研究について、科研基盤研究（B）をもとに明治大学・一橋大学・放送大学・佐賀大学・九州産業大学の研究者とNPO 法人全国地域結婚支援センターの実務家による「地域若者研究会」を立ち上げ平成20年度から平成29年度まで延べ40回の研究会・調査を行い、平成29年には公開シンポジウムを開催し、研究成果を出版した。
- 九州における地域交通機関の分析や地方自治体と連携した地域課題解決に関わる研究、また、観光庁と連携した地域の観光産業を担う中核人材育成に係わる事業は観光地のブランド化の研究を発展させており、これらの研究は地域と響き合う研究を大きく推進している。
- 「戦前期経済関係資料」として、経済学部の前身である大分高等商業学校創設以来の大正末期から昭和20年にかけて収集した資料である本邦・旧植民地・海外の産業・経済全般について公開をしている。これらは、CiNii および国立国会図書館のデータベースと接続し、戦前期経済の研究資料の提供を行っている。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

3. 医学部、医学系研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 8)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 8)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 平成 29 年度に日本学術振興会の研究拠点形成事業（B 型：アジア・アフリカ研究基盤形成型）として「アフリカ諸国におけるピロリ菌を中心とした消化器感染症センターの形成」、また同年度に日本医療研究開発機構（AMED）と国際協力機構（JICA）の共同実施による地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）による、フィリピンの狂犬病排除に資する医・獣医学からの新たな人と動物の狂犬病診断システム構築に向けた取組が採択されるなど、アジア、アフリカ諸国との新たな共同研究活動も推進している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、5 報、3 報との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

4. 理工学部、工学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 10)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 10)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 理工学部創生工学科建築学コースの教授、産学官連携推進機構の准教授が中心となって、平成 30 年 1 月に大分大学減災・復興デザイン教育研究センターを設置し、その後常設センターとなり、①災害支援、②防災教育、③復興デザインを中心に大分県と連携して活動を推進している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、2 件、2 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

5. 福祉健康科学部

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 12)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 12)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

優れた研究業績を増やしていく必要があるものの、学術的に優れている研究業績、社会・経済・文化的に優れている研究業績があり、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

6. 福祉社会科学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 14)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 14)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。